

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577600244		
法人名	社会福祉法人正清会		
事業所名	グループホーム白松苑		
所在地	山口県山口市阿知須4900番地4		
自己評価作成日	平成27年11月20日	評価結果市町受理日	平成28年4月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

三食を、利用者と職員で手作りをしています。お一人お一人に出来る事を分担し手伝ってもらっています。季節を感じられるお菓子も作っています。(おはぎ、かしわ餅) 食器の下膳や食器洗いも手伝ってもらっています。個人の趣味(カラオケ、生け花、塗り絵等)楽しめています。阿知須幼稚園に手作りのカレンダーを利用者と一緒に届けています。芋ほりをして焼き芋大会をしました。秋の味覚の秋刀魚を焼いて味わって頂きました。帰宅支援で仏前参りに帰られています。地域の方より切り花を頂く事があり楽しんでいます。季節の花の見学(桜、芝桜、菖蒲、あじさい、コスモス)に行っています。地域の防災訓練に職員3名が参加し地域交流ができました。ホテル観賞にボランティアの方と出掛けました。十七夜祭の踊り山の見学や夜の花火大会の鑑賞、楳野川の花火大会の鑑賞、ぶどう狩りに行きました

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの思いやできることを把握され、外出や食事、活躍できる場面づくりに活かしておられ、個別の支援に取り組まれています。食事は利用者の好みや希望を聞かれて、献立を立てられ、法人の栄養士から助言を得られて三食とも事業所で各ユニットごとに調理しておられます。事業所でつくられた野菜や地元の旬で新鮮な食材を使用されています。利用者は食事の準備から後片づけまで、できることを職員と一緒にされ、季節ごとの料理やおやつづくり、外食など、食事が楽しめるように支援されています。地域での防災訓練に職員が参加されたり、地域の文化祭に利用者が作品を出展され、見学に行き交流されたり、小中学生とのふれあいやボランティアとの交流、地域の祭りに参加されて、ソーメン流しやビンゴゲーム、食事など楽しまれたりしています。花壇の花植えや水やりを地域の方がしておられる他、管理者が認知症出張講座の講師をされているなど、地域との関わりを深めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の方とふれあいを持つ」を理念に掲げて地域活動に参加する事を全職員が共有し、実践している。地域の防災訓練 夏祭り、文化祭、ふれあい祭り、小中学生とのふれあいがあり、GH職員会議で話し合い共有している。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示して全職員で共有している。職員会議で理念について意識づけをし、地域との関係が深まるように、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が四季の花を持って来て下さる。地域の防災訓練に職員が参加し車椅子の指導を行ったり交流している。地域の夏祭りには、利用者と一緒に参加し、そうめん流しや、ビンゴゲームに参加、食事を共にしました。	地域の文化祭に利用者の作品を展示して見学したり、11月のふれあい祭りに参加して、花を買ったり食事をして地域の人と交流している他、地区の夏祭りに参加して、ソーメン流しやビンゴゲーム、食事などをして交流している。地震を想定した地区の防災訓練に職員が参加し、車椅子での介助方法を指導している。法人の夏祭りや「秋の味覚を楽しむ会」には、地域の人参加があり交流している他、散歩や買い物(ショッピングセンターや行きつけの店)などの時に交流している。小中学生が体験学習で来訪し、車椅子の掃除やおしゃべり、室内の掃除などをして、利用者と交流している。花壇の花植えや水やり、花の差し入れがある。認知症出張講座の講師を管理者が努め、地域で行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出張講座の依頼があれば出掛けている。運営推進会議を通して協力出来る事があれば協力する事を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	毎月の職員会議にて、自己評価の説明を行い、全職員が、各自記入をして意見を出し自己評価外部評価を実施する意義を理解した。法人での医療的実践研修に毎月参加し、急変時における具体的対応や、体調不良時の観察のポイント等、実際に役立つ研修に参加している。GHでの職員会議にて復命をしている。実際に意識喪失になられる方がおられるので、その時の対応はしっかり出来て実践につながっている。	職員会議で管理者が職員に評価する意義について説明し、自己評価するための書類を全職員に配布して各自で記入してもらった後、ユニット毎で話し合い、管理者がまとめている。前回の外部評価結果を受けて、運営推進会議での意見を反映して外出場所を決めたり、研修を活かすための工夫をしているなど改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催をしている。行事の報告、外部評価の報告を行っている。運営推進会議での意見は、地域との防災の連絡体制やGHの避難訓練への参加の声掛けを行う予定で進行中。行事には委員さんの参加協力がえられる。	会議を2ヶ月に1回開催し、事業所の現状や取り組みについて報告し、意見交換をしている。会議のメンバーには、地域の各種団体の人の参加があり、事業所行事(ソーメン流しの竹の提供やお茶の接待、餅つき、外出の支援)への協力がある他、地域である行事や外出場所の情報を得て、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者と電話で相談や、事故報告を行った際に、ご家族からのご意見などの報告を行い日頃から連携を取っている。地域包括の職員が運営推進会議に出席されその時に意見を貰っている。認知症出張講座の依頼があれば出向いている	市の担当者とは、直接出向いて報告や相談をして助言を得たり、電話で情報交換しているなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括センターの職員とは、運営推進会議時に情報交換したり、相談をして助言を得ているなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて法人内の研修に参加しGH職員会議にて全職員に復命を行って正しく理解している。昼間は、玄関のカギはかけないで、お出かけされる方には付き添っている。	職員は、法人の研修会で身体拘束について学んでいる他、職員会議で具体的な事例を取り上げて話し合い、理解した上で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、管理者が注意したり、職員同士で話し合っている。玄関には施錠せず、外に出たい利用者には、職員と一緒に寄り添って出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での研修に参加しGH職員会議で復命を行って、防止の徹底をしている。日々の業務の中で注意を払い虐待防止に努めている。テレビ報道などの情報には、このような事がないように職員が声を掛けあっている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在は、必要とされる方がおられないが、必要性があれば、学ぶ機会を持ちたいと思っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時・退去時に説明し、納得を頂いている。入居前自宅訪問も実施しご家族の不安や疑問点など尋ね納得を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族からの相談や苦情について面会時などにお聞きしあれば運営者に報告し内容について話し合いの機会を設けている。意見要望を職員とも話し合う様にしている。運営推進会議の委員さんより「苦情を受け付けています」と言われている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明し周知している。電話や面会時、運営推進会議等で家族から意見や要望を聞いている。事業所だよりの他に、毎月、利用者を担当している職員が、1ヶ月間の利用者の状態や様子を手紙にして、写真を添えて家族に送付し、意見が言いやすいように工夫している。面会時には主に管理者が話を聞いたり、事業所の携帯電話の番号を知らせて対応している。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と職員の面接があり、職員が向上心を持って働けるよう、職能評価をおこなっている。GHの職員会議で意見や提案を聞いています。利用者の日常の様子や報告、その方に合った食事時間の変更の為職員の勤務時間の変更の提案、その方に合った排泄用品の提案(トイレでの排泄をめざして)	職員会議や申し送り時、連絡帳などで、職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中で管理者が聞いている。トイレでの排泄の自立のための排泄用品の工夫や、ひとりの利用者の食事時間の希望に合わせての勤務時間の変更など、職員の提案をサービスに反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	法人に人事制度があり、職員が向上心を持って働けるよう、職能評価を行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加しGH職員会議にて復命を行っている。医療的ケア実践研修が毎月あり研修を受けている	外部研修は、職員に情報を伝え、職員の段階に合わせて必要な人に必要な研修の参加の機会を提供している。法人研修は、月1回、医療的ケアの実践研修として各委員会がテーマ(看取り、救急救命、食中毒、夜間防災、身体拘束排除の取り組み、感染症など)を決めて実施している。外部研修、法人研修への参加者はユニット会議の中で復命報告している。法人研修は職員全員の参加とし、受講できない職員には資料を配布して、復命報告を受けた後に、必ず1行感想を提出するようにして共有し、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流会に参加している。他の施設の弁論大会に参加し、交流している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前施設や家族から、情報を頂きご本人が早く安心して生活が出来る様対話に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族と連携を密にし、要望等をお聞きしながら、信頼関係に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、本人 家族のその時必要なサービスの対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人から昔の事など教えて頂く事も多く、昔の知恵を今の生活に生かし、共に生活する立場を築くよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とコミュニケーションをとり、行事にも一緒に参加され共に本人を支えて行く関係を築いている。毎月1回のお手紙を送り状況等お知らせしている。お嫁さんと一緒に、娘さんの家へ行かれている。散髪は家族と行かれている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親せきの人の面会、知人友人の人の来訪や電話での交流、馴染みの店での買い物、自宅周辺のドライブ、地域行事への参加などを支援している。家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用や、法事への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している	友人、知人、親戚の人などの来訪がある他、電話での交流や馴染みの店での買い物、自宅周辺のドライブ、地元の行事への参加など支援している。家族の協力を得て、行きつけの美容室の利用や墓参り、法事への参加、外出(温泉、外食)など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で休まれている方に対して「あのおばあちゃんは？」と気にかけて下さる。お茶の時間や食事の時間も「ご飯一緒に行こうやー」等誘い合って来られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先のお見舞いに出掛けたり、電話連絡で状況をお伝えしたり、お聞きしたりして、「お困りの事はありますか？」とお尋ねしています。併設の特養へ移動された時には声を掛けて本人、ご家族との会話もできている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や、カンファレンス等で本人の意向を確認して希望が叶えられるよう支援している。常に本人の今に寄り添い、職員間で情報交換している	アセスメント情報シートや個人生活史記録表などを活用している他、日常の関わりの中で、利用者から聞いたことや言葉や様子などをケース記録に記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、カンファレンスで話し合い本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら前サービス提供者や家族からの情報・生活歴などをお聞きして、これからの暮らしの把握に努めている。自宅訪問をしたり、ケアマネージャーからの情報も頂いている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入浴の時間はお一人お一人に関われる大切な時間であり、コミュニケーションも取れて、ゆっくりと対応出来ている。個々の一日の過ごし方や、ペースに合わせ、その都度その方に合ったケアに努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしい暮らしが続けられるよう、一か月ごとのモニタリングで見直しを行っている。必要な関係者と、半年に一回のカンファレンス時・必要時に話し合いを行い、より良い生活の為に介護計画を作成している。ご家族がカンファレンスや認定調査に参加されている	管理者、計画作成担当者、利用者を担当している職員、看護師、家族などで、かかりつけ医の意見を参考にしてカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。毎日、ケアプラン実施記録でチェックして、1ヶ月ごとにモニタリングを実施し、3ヶ月ごとに評価して6ヶ月ごとに見直しをしている他、利用者の状態の変化に応じて見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の記入や、職員間の連絡帳の記入によりその都度情報を共有して気づき又は、相談事を話すようにしている。日々の様子を個別に記録しているケアプランの実践や、モニタリングなどに生かしている。GH職員会議で一人一人の情報を意見を出し合い共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院中で、居室が開いている時は、必要に応じてショートステイの受け入れも行う。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々と、四季折々の暮らしを楽しまれている。(そうめん流し、しめ縄作り、フラダンス、運動会、文化祭、ひなもん、餅つき、お手玉、カラオケ、舞踊、よさこい、コーラス)など、楽しまれている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族と連携を密にし、信頼関係を築き、納得と同意を得て本人の希望に応じている。協力医療機関を、かかりつけ医とし専門医の受診は、職員が同行し、家族の協力も得ている。受診後は電話で結果を報告し介護記録と連絡帳に記入し共有している。希望される病院の受診を行っている。12月より歯科の無料検診開始。希望すれば、往診もある。	家族の同意を得て協力医療機関をかかりつけ医とし、受診の支援をしている。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診時には、個人ファイルを持参して医師に利用者の情報を伝えている。受診後は、家族に電話で報告し、職員間は介護記録、連絡帳で共有している。緊急時や夜間は、法人の看護師と連携して、協力医療機関に連絡して協力を得るなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養の看護職と連携を持ち、急な対応にも協力して貰っている。利用者の状態を、毎日報告相談し、必要な情報を貰って、本人が安心して生活出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にサマリーを提供して、支援方法を伝えている。退院時には、病院関係者・本人・家族と連携をとり、話あっている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」を、入居時に説明し、重度化した場合には、早い段階から医師と連携を取りご家族と十分に話し合いを行う。職員は法人の看取りの研修に参加している。	重度化や看取りに向けて事業所のできる対応や取り組みについて、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、医師や家族と話し合い、利用者の状態の変化に応じて、その都度、方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事例が生じた場合は「事故、ニアミス報告書」に記入し一人一人の状態に応じた事故防止に取り組んでいる。法人のリスク委員会での検討、職員会議にて共有している。誤薬については、朝の申し送りで、声を掛けあっている。毎月一回の法人内研修の医療的実践研修に参加し実践力を見につけている。職員会議にて復命を行っている	事例発生時には「事故、ニアミス報告書」に発生状況を記録し、その場に居た職員が対策を話し合って記入し、ユニット会議で報告し、リスクマネジメント委員会で検討し、共有して、一人ひとりの事故防止に努めている。法人研修の医療的実践研修に参加して、事故防止や事故発生時の緊急対応について学んでいるが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、法人が実施する夜間想定を含む防災(消火、通報、避難)訓練に参加している。GH内でも、避難(担架で運ぶ)練習を行った。地域との協力体制は自治会と検討、進行中です。	年3回、法人主催の防災訓練に事業所も参加している他、事業所独自で、通報、避難訓練を消防署の協力を得て実施している。法人の防災訓練には地域住民が参加している。地域の防災訓練には職員3名が参加している。法人が地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の立場に立ち、本人を尊重した対応・言葉かけをおこなっている。トイレの声掛けについては、周囲に気付かれないように、耳元で小さい声で伝えている。入浴は一人一人入られている。ポータブルの清掃時は、蓋をするなど配慮している。使用済みのパットなどは、袋に入れて持ち運ぶ、本人 周囲に配慮している。	法人の研修で人格の尊重やプライバシーの確保について学び、職員は理解している。利用者の思いを大切にして、受け入れて、誇りを傷つけない言葉かけや対応をしている。個人記録等は保管し、取扱いに注意している。職員は倫理及び法令遵守に関する研修を受けて、守秘義務について徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で「どうされますか どれにされますか？」等、本人が選択しやすいように声掛けを行っている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方に合ったペースで、一日を過ごして頂けるよう支援している。その方の生活のリズムを大切にしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後は、化粧水やクリームをつけたり起床後はお化粧をされている。寝癖が付いている方には髪を梳かす時クリームをつけて整容されている。外出時はその人らしいおしゃれが出来るよう支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食共に利用者・職員で作っている。玉ねぎやさつま芋等収穫し食卓に上がる。野菜のしごや盛り付け、配膳など、その方に出来る事をして頂いている。今度食べたいものなどをお聞きし提供をしている。芋ほりを行い天ぷら、ふかし芋にしたり、四季折々の食事を楽しんでもらっている。	利用者の好みや希望を聞いて職員が献立を立て、法人の栄養士の助言を得て、三食とも事業所で各ユニットごとに食事づくりをしている。事業所でつくった旬で新鮮な野菜(タマネギ、ブロッコリー、キュウリ、トマト、ナス、オクラ、ウリ、サツマイモ)を利用している。利用者は食材の買い物や野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、配膳、下膳など、できることを職員と一緒にしている。おせちや恵方巻き、花見弁当、おはぎ、ソーメン流し、さんき焼き(秋を楽しむ会)、クリスマスなど、季節に合わせた料理を提供している。おやつづくりや喫茶、外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量の記録をし、甘酒、おしるこ、夏は、スイカ、等お好きな物を提供している。特養の管理栄養士にバランス等献立も相談に乗ってもらうことがある。看護師にも相談している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人お一人、毎食後イソジンガーグル、緑茶などでうがいをして頂いている。夕食後に義歯をポリデントにて消毒している。ご自分で出来る方はご自分でされている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方に合ったタイミングで誘導が出来ている。排泄記録を記入し、その方に合った排泄用品を検討し、トイレでの排泄に向け前職員が支援している。	排泄記録を活用して排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導でトイレでの排泄ができるように支援している。排泄用品の工夫をして、トイレでの排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を記入し、便秘にならないように汁ものには繊維のある野菜をたくさん取り入れて、食べ物の工夫を行っている。散歩にも行っている。オリゴ糖ヨーグルト、ヤクルト、R1の提供も行って、予防に努めている		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日午後、楽しんで入浴できるよう一人でゆっくりその方に合った入浴支援をしている。希望があれば、午前中でも入浴対応できる。冬至のゆず湯や入浴剤も取り入れている。入浴の嫌いな方もあるが時間を置き他の職員の声掛け等、工夫して入浴していただいている。	入浴は毎日14時から17時まで可能で、利用者の希望や体調に合わせて、ゆっくり入浴できるように支援している。利用者の状態に合わせて、シャワー浴やリフト浴、足浴、清拭などで対応している。利用者の好みの入浴剤や柚子をいれて、香りや色を楽しめるように工夫している。家族の協力で近隣の温泉で入浴を楽しんでいる利用者もある。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて好きな時間に、ベッドに誘導して休息してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について、薬局から利用者様一人一人の服用薬品名カードを頂き把握している。服薬できない時は、看護師に相談し、内服して頂くためのアドバイスを貰っている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カレンダー作り、母の日、七夕、敬老会、十五夜、文化祭の作品づくり、クリスマス、しめ縄作り、餅つき、節分、ひな祭り、草餅づくり、さつま芋、玉ねぎの植え付け、収穫、なすび、オクラの植え付け、夏祭り、幼稚園、小、中学生とのふれあい、ボランティアによるフラダンスやリハビリ体操、カラオケ、塗り絵、洗濯物を畳む、掃除等活躍できる場面作りや楽しみの支援をしている	テレビ視聴、新聞購読、新聞や週刊誌を読む、歌を歌う、カラオケ、リハビリ体操、ラジオ体操、ちぎり絵、ぬり絵、折り紙、ゴミ袋づくり、カレンダーづくり、文化祭の作品づくり、しめ縄づくり、編み物、お手玉づくり、カルタ、来訪しているボランティアとの交流、小中学生とのふれあい、季節行事、食材の買い物、下ごしらえ、テーブル拭き、配膳、下膳、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみなど、利用者一人ひとりの思いやできることを把握して、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状態、希望などに合わせて、散歩したり、花見(桜、菖蒲、アジサイ、コスモス、菜の花)道の駅散策、花火、ホテル見学、ぶどう狩り、中学校の運動会の見学、文化祭の見学、ひなもんまつり、買い物、自宅周辺へのドライブ、自宅へ仏前参り等、戸外へ出かけられるよう支援している	散歩や買い物、花見(桜、芝桜、菖蒲、紫陽花、コスモス、菜の花など)、道の駅の散策、花火見物、ぶどう狩り、小中学校の運動会の見学、文化祭の見学、自宅周辺へのドライブ、家族の協力を得ての外出など、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	馴染みの店へ、買い物へ行かれている。②外出時には自分で買い物をされる。ふれあい祭りにはおこずかいを持って出かけられ、花や、お菓子、日用品も買われた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と固定電話で話されている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には利用者と一緒に飾りつけをしたクリスマスツリーや布などで作った飾り物、利用者がいけた生け花などを飾り、窓から見える田畑の風景も季節を感じる事が出来る。ローカにはソファを配置し、うとうとしたり気持ちの良い場所がある。利用者の家族が来苑された時ゆっくり歓談できる、共有の空間は広い、明るく、温度などにも配慮している	共用空間は明るく広々としている。玄関や共用空間の壁面には利用者と職員が一緒につくった季節に合わせた作品が飾ってある他、玄関やリビングに季節の花が生けてあり、窓から見える外の景色からも四季の移り変わりを感じることができるなど季節感を採り入れている。リビングダイニングには、テーブルや椅子、テレビ、ソファを配置してあり、廊下にもソファを置いて、利用者が思い思いに過ごせる居場所づくりをしている。温度、湿度、換気にも配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食後に気の合った利用者同士、希望の方などには、コーヒーを飲まれたりゆっくりされている②居室や廊下のソファで仲の良い方と会話を楽しまれている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前や入居時に説明を行いご本人が使用されている、馴染みの、ダンス、机、いす、時計、遺影、ぬいぐるみ、人形、カレンダー、観葉植物等好みの物などを持ち込んで本人が安心して、居心地良く過ごせるように工夫している	たんす、仏壇、椅子、テレビ、CDラジカセ、冷蔵庫、籐の回転椅子、化粧ケースなど使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、ぬいぐるみや写真、花を飾り安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器やシルバーカー、車椅子が、移動しやすい空間を保持し生活環境を保持し生活環境を整えている。安心して、移動して頂けるよう障害物を置かないようにしている		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 白松苑

作成日: 平成 28年 4月 18日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	15	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない	全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続	実践力が向上する研修、訓練を実施	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。